

六月七日 議事録

文責・小川慶太

発表者 鯨井留実・桑原翔・佐藤奈央・小原章史

## 議題

コルビュジェの構想「輝く都市」は、現在に引き継がれているということをその正しさの証明としていいのか

## 議題に対するグループの考察

ル・コルビュジェの「輝く都市」におけるアイデアは、現在の私たちの建築と都市計画に新しい基盤をもたらした。そして彼の功績はとはまさに年を建設する上での問題を浮き彫りにさせ、提起した点にある。彼の構想が実現されなかったからといって、その事実だけで彼の考えが間違っていたとはいえない。

## 議論の展開

○コルビュジェの構想「輝く都市」は、現在に引き継がれているということをその正しさ  
と「＝」で結んでよいのか

→全部ではなくても二、三割はとりこめてるのでは？現在コルビュジェの構想の部分的利用をしている

○ ホントに引き継がれているの？

→その精神やゾーニングとかは引き継がれている

○ 引き継がれている「＝」正しいこと？

→彼の見解は間違っていたとは言えない、例えば、「人口過密をすすめる」という彼の言葉は現在そのとおりになってる。

○ 「輝く都市」の構想が実現されなかったパリではその後どう発展したのか？パリ人口は密集したのか、郊外へ散ったのか。

→その前にコルビュジェの案を通すかどうかということは、過去のパリをそのまま保存するかどうかの話であった。

→彼は社会問題を指摘するにとどまった。

→彼はあくまで自分の主張を通そうとした。

○ コルビュジェの一つ一つの建築に見られる哲学・思想は、都市計画においてはどのように反映されたのか？発表ではその経過にふれられていない。それはどう考えるか？

→建築と都市論は全くの別個のものではないし、考えてるのは同一人物。彼は建築を始めて間もないころも彼の都市論を持っていた。

○ どうやって反映された？

→たとえば、自然を大切に、窓を大きくして、外の緑をみることができる(まるで家の中に緑があるように)。高層であることが目立つから、そっちに目がいきがちだけど、そういう意味で実は繋がりがああり、関係がある。

「輝く都市」コルビュジェ(著)

→そこにある住宅というものに目をつける。問題点は、都市が人口過密→不衛生。それはよくない。区画をはっきりさせて、自然を配置すれば、商業とか工業とかともうまく共存できる。

○ そうやってつながったの？区画整理は失敗に終わった。なんで「輝く都市」は実現しなかったんだろう。市民の反発は「伝統保持」以外にもあったのではないだろうか。彼の描く都市は、人が住みやすいのか？すみにくいのか？

コルビュジェの案を、ポストモダンの時代にもってくるってことはどうなんだろう、おそらくコルビュジェの案が現代に持ってこれるのは、フレキシブルなところが多いから。人が住めるのか？ホントに自然と合理主義が共存できるのか？

→「輝く都市」が評価されたのは、彼は問題をシンプルにしたことにある。

○ コルビュジェの建築物を賞賛するのはどうなのだろうか？

→彼は住みやすさや人間の事について考えていたはず。彼の建築に住んだ人のインタビューには、「暑い」「夏はきつい」(集合住宅)というようなものがある。しかし、コストの問題、人数の問題、プライバシーの問題を合理的に考えるなら、コストや人数の問題を優先的に考えざると得なかったのではないだろうか。

むしろコルビュジェの建てたものが、すべて住みやすいとか、住みにくいかということは、発展性のない問題である

○ コルビュジェの言う合理的とはどういう意味か。建てる側の問題か、すむ側の問題か。コルビュジェのいう合理性はすべての人に普遍的だったのか？

→コルビュジェの正否を問題にしたいわけではない。私たちの班が、コルビュジェを賞賛するのは、彼が社会的な問題に対する意識が高いところにある。それを私たち自身が見習うべきである。

○ コルビュジェは元画家、よって彼を建築家としてより、アイデアマンとして見たらどうか？

→彼は問題を指摘したにとどまり、その問題を解決するまでには至らなかった。しかしそのスタンスはパリでも世界でもどこでも通用する。「輝く都市」がどこでも通用しているのではない。

○ 都市は合理的じゃないといけない？

→「合理的」という言葉があらわす具体的な意味も、時代、場所で変化する

○ 理想の都市って何？

→「合理性」という言葉に惑わされてはいけない。「都市を建築でよくしていこう」としたことが大切。

○ そもそも、コルビュジェは本当に人のため、社会のために建築をやったのだろうか？彼は権利を希求し、もしかしたら彼は一方的だったのではないか？みなはコルビュジェをどう思ってる？

→彼は自分の愛する「緑」を守りたかっただけではないか。

→彼は神ではない、だから、彼に真の客観性を求めることは間違い。

○ 彼はアーティスト？

→建築家はアーティストではない

○ それをこえて、どう評価するのか

→アート、デザイン、土木建築・・・そこは違う視点で評価することが大切

→最終的に、すきか嫌いかで判断するべきではない。しかし、彼が、私たちが今もこうして議論できる何かを残しているのは確か。

○今、私たちに重要なのは、例えば幕張などの建築都市にコルビュジェの発想が活かされるならば、それが私たちに与える影響は何か、ということ。

#### 記入者の考察

時間切れで次の議論にうつれなかったのが残念だが、私も、彼の建築が現在建設中の幕張の都市に引き継がれているならば、それが私たちにもたらすものは何かかということは、私たちにとって何より重大な問題であると考えます。

私はあまりに合理性を追求した都市には物足りなさを感じるし、魅力を感じない。それは私がまだ若く健康であるからであろうか。

1945年から構想が練られたこの都市は、私の家から電車で20分と身近な場所である。この都市が完成したら、是非足を運んで、何かを感じ取ってみたいと思う。